

地域計画

策定年月日	令和7年3月26日
更新年月日	令和8年3月25日 (第2回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	つくば市 082201
地域名 (地域内農業集落名)	桜地区 第15区 (上境 中根 栄 松栄 松塚 横町 大金田 古来 吉瀬)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	400.99 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	274.38 ha
② 田の面積	242.77 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	158.01 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0 ha
(参考)区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	223.01 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	- ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

70才以上で後継者が「未定」及び「不明」となっている農業者の耕作地は、将来遊休農地化が懸念されることから、地区内の農業者や新規就農者への円滑な集積・集約を進める必要がある。但し、施設園芸などに関して移動することは難しいので集約は困難。条件不良による耕作困難な農地については、耕作の採算が取れないこともあり、耕作できていない土地もあるが、条件の良い土地は担い手確保できており、条件格差が深刻となっている。既存農家に経営拡大の余力がなく、規模拡大困難であり、10年先の不確実性が高く、安定的な環境整備が急務。水稻比率が高い地域のため、初期投資がかかること、技術習得の難しさが障壁となり、新規参入のハードルが高い。後継者不在農家の円滑な経営継承が課題。また、地域外からの新規参入者も見られるが、地域内でのルールが情報共有されていないことが課題。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

当地区の主要農産物は米であるが、畑作は都市近郊のため、需要に合わせたトマト、ナス、ネギ等多品目生産が盛ん。米については、将来的にブランド化も検討したい。農地利用については、認定農業者に加え新規就農者を育成し、利用していく。水田を中心に農地の集約化による耕作条件の改善を進める。そのために地域と担い手が一体となって、継続的に農地利用について意見交換を行う。田に関しては近隣の耕作者にまわってくる流れが出来ており、割り振りがなされているので条件の良い土地については遊休農地になりそうな問題はない。後継者不在農家の円滑な経営継承や新規参入者が地域に溶け込めるように、地域のルールの伝達、共有ができるような仕組みづくりを検討する。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地中間管理事業の活用により区画の大規模化や耕作条件を改善し、既存の担い手を中心に面積の拡大および農地集積を進める。現状、田に関しては、水利組合があるため、耕作地が遊休農地化する前に、話し合いなどにより対応出来ている。 農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を踏まえて、段階的に集約化を進める。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	26.87	%	将来の目標とする集積率
			66 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
市、農業協同組合、普及センター等関係機関と連携し、目標地図に位置付ける者を中心に農地中間管理事業による集約化を進める。 地域内の農業を担う者19 経営体の現耕作面積:108.3ha			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組
農地中間管理事業の活用により区画の大規模化や耕作条件を改善し、既存の担い手を中心に面積の拡大および農地集積を進める。現状、田に関しては、水利組合があるため、耕作地が遊休農地化する前に、話し合いなどにより対応出来ている。
(2) 農地中間管理機構の活用方法
農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を踏まえて、段階的に集約化を進める。
(3) 基盤整備事業への取組
関係者の合意形成を図り、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を検討する。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組
市、農業協同組合、普及センター等関係機関が連携して、地域内外から多様な経営体を募集する。生産する農地の紹介や栽培技術等の支援を行い、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。外国の方がこの地域に何十町もの土地でたくさんのネギを栽培していて、既存のネギ農家が締め出されるのではないかとという危惧を非常にもっているため、しっかりと管理する必要がある。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
現状で特に必要なし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)					
<input checked="" type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/>	③スマート農業
	④畑地化・輸出等		⑤果樹等		
	⑥燃料・資源作物等		⑦保全・管理等		⑧農業用施設
					⑨耕畜連携等
					⑩その他
【選択した上記の取組内容】					
①アライグマやハクビシンの被害があるので、箱罠を設置するなどの対策を地区内で検討する。					
③ドローンでの農薬散布を行っているため、更なる取り組みを地区内で検討する。					

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)					
		経営作物等	経営面積	作業受託面積	経営作物等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考	
1	認農	A	ミニトマト	0.51 ha	ha	ミニトマト	0.51 ha	ha	A	
2	認農	B	いちご	0.11 ha	ha	いちご	0.11 ha	ha	B	
3	認農	C	レンコン	1.27 ha	ha	レンコン	1.27 ha	ha	C	
4	認農	D	水稲、小麦、トウモロコシ	0.41 ha	ha	水稲、小麦、トウモロコシ	0.41 ha	ha	D	
5	認農	E	水稲	10.98 ha	ha	水稲	10.98 ha	ha	E	
6	認農	F	水稲、いちじく、ぶどう	2.52 ha	ha	水稲、いちじく、ぶどう	2.52 ha	ha	F	
7	認農	G	水稲	21.95 ha	ha	水稲	21.95 ha	ha	G	
8	認農	H	いちご、水稲、甘藷	22.17 ha	ha	いちご、水稲、甘藷	22.17 ha	ha	H	
9	認農	I	水稲	14.09 ha	ha	水稲	14.09 ha	ha	I	
10	認農	J	レンコン	4.43 ha	ha	レンコン	4.43 ha	ha	J	
11	認農	K	水稲、小麦	10.35 ha	ha	水稲、小麦	10.35 ha	ha	K	
12	認農	L	レンコン	0.62 ha	ha	レンコン	0.62 ha	ha	L	
13	認農	M	水稲	2.81 ha	ha	水稲	2.81 ha	ha	M	
14	認農	N	水稲、小麦、そば	11.25 ha	ha	水稲、小麦、そば	11.25 ha	ha	N	
15	利用者	O	かんしょ、里いも、ピーマン、トマト、キュウリ、ナス	0.54 ha	ha	かんしょ、里いも、ピーマン、トマト、キュウリ、ナス	0.54 ha	ha	O	
16	認農	P	ピーマン	0.33 ha	ha	ピーマン	0.33 ha	ha	P	
17	認農	Q	水稲、ネギ	0.89 ha	ha	水稲、ネギ	0.89 ha	ha	Q	
18	認農	R	水稲、小麦、ミニトマト、ネギ	0.60 ha	ha	水稲、小麦、ミニトマト、ネギ	0.60 ha	ha	R	
19	認農	S	水稲、ネギ、大豆、ジャガイモ	2.47 ha	ha	水稲、ネギ、大豆、ジャガイモ	2.47 ha	ha	S	